

2022年度 グローバル教養学部

「帰国生徒(外国学校就学経験者)入学試験」

【講評】

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科	志願者数	合格者数
グローバル教養学科	21	18

(2) 本入学試験の目的

グローバル教養学部グローバル教養学科は、グローバル化した世界にふさわしいリベラル・アーツの学びを総合的に英語で学ぶことによって、グローバル化する社会のなかで実践的に問題発見・問題解決をリードし、学び続けることのできる人材を育成します。日本とオーストラリア両国での学びを通じて、多文化社会に生きる人々と協働し、将来、日本、アジア、そして国際社会のリーダーとして貢献することに強い意欲を持つ生徒の受験を期待しています。本入学試験は、高等学校などの成績や、本学部の学びに関する「知識・理解」と「意欲・関心」を問う2種類のエッセイに基づく書類選考や個人面接を通じて、アドミッション・ポリシーに定めた素養と資質、学力、関心を有する学生を受け入れることを目的としています。

2. 試験内容

(1) 書類選考

高等学校等の成績とEssay1・Essay2の内容を総合的に評価しました。Essay1・Essay2の内容は以下の通りです。

①Essay1 (within 400 words)

Choose ONE topic from the following list below (Topic Options for Essay 1) and debate one issue that you think most significant within the chosen topic. Refer to specific data, facts, and sources, and put a reference list at the end. Indicate the topic number, and your essay title in the fields.

[Topic Options for Essay 1]

No.1 Tourism and cultural diversity

No.2 The changing role of the state in globalization

No.3 The future of books in the age of Internet

No.4 The Future of Art

No.5 Global collaboration and climate change

No.6 Privacy and human rights in the digital media

No.7 Acceptance of refugees and immigrants in the Asia Pacific region

No.8 Market economy and social justice

No.9 Technological advancement and human creativity

①Essay2(within 400 words)

Explain why you wish to study at the College of Global Liberal Arts at Ritsumeikan University. Your essay should describe what you plan to study and how you will benefit from the experience at GLA by giving specific reasons.

(2) 面接選考

Essay1・Essay2の内容に基づいた、英語での20分程度の個人面接を実施しました。

3. 出題の意図

(1) 書類選考

Essay1の出題意図は大きく分けて二つあり、Topic Optionsに対する受験生の知識力や理解力の評価と、思考力や判断力の評価にあります。Essay2の出題意図は、受験生の関心と意欲、積極的態度を評価し、グローバル教養学部を志願する理由を確認することにあります。そしてEssay1およびEssay2で共通する出題意図は、情報を適切に収集・分析する能力、自らの考えを明確に表現し議論する能力、そしてEssayの構成や修辭法を含む英文による文章力について丁寧に審査・評価することにあります。

(2) 面接選考

個人面接の意図は、英語での質疑・回答・討論の一連の流れを通して、面接対象者のTopic Optionsに対する知識力および理解力をさらに具体的に確認することと、面接対象者のプレゼンテーション力、会話力、他者と協働する姿勢について、丁寧に審査・評価することにあります。

4. 評価のポイント

(1) 書類選考

Essay1では、人文学および社会諸科学の幅広い教養を学ぶ上での知識について、受験生がどの程度の知識を持っているか、さらにその知識をどのように活用しているかが評価のポイントになります。論理的および批判的議論をしっかり展開すると共に、グローバル社会における倫理的判断力を持っていることをアピールするところが高い評価ポイントになります。またEssay2では、受験生が人間社会への多様性と今日のグローバル社会の出来事に強い関心を示し、グローバル教養学部で学ぶことへの高い意欲と関心、そして学びについての明確な積極性とビジョンを示しているかが評価のポイントになります。さらに、Essay1およびEssay2ともに、文章の構成・内容・タイトルに留意しながら、英語でどの程度作文ができるかが評価のポイントになります。

(2) 面接選考

Essay1に基づく面接では、受験生が、その思考において論理性や一貫性、批判的思考能力をどの程度持ち、またTopic Optionsに対してどのような問題意識や現状認識を持っているかが評価のポイントになります。またEssay2に基づく面接では、グローバル教養学部で学ぶことへの積極性と意欲をどの程度持ち、また他者とどのように協働していきたいか、さらに今後の自身のビジョンをどの程度描けているかが評価のポイントになります。そして、Essay1およびEssay2ともに、的確な表現でコミュニケーションを行う能力がどの程度あるか、また自分の考えを明確に表現し、対話の中で適切に意志を伝える能力がどの程度あるかが、評価のポイントになります。

5. 解答状況

(1) 書類選考

多くの受験生が、高い英語力とライティング・スキルを持ち、正しい文法と正確な表現・適切な用語で、Essay1とEssay2を作成していました。Essay1については、新聞やネットの記事、調査資料や学術書籍など、複数の参考文献・参考資料を的確に引用しながら、受験生本人の見解を明確に表現しているEssayは高く評価されました。Essay2については、何より立命館大学とオーストラリア国立大学（以下、ANU）が一丸となって新たなリベラル・アーツ教育に取り掛かることに高い興味と共感を持ち、そこから自分のビジョンと勉学について建設的でグローバルな視点での抱負を表現しているEssayは高く評価されました。評価ポイントをおさえられていた受験生は約8割5分程度であり、能力のばらつきは全体的には目立っていなかったものの、最上位と最下位の間の評価の差は顕著でした。

(2) 面接選考

英語でのコミュニケーションに問題がある受験生はいませんでした。Essay1に基づく面接では、多くの受験生が面接官の質問を傾聴し、流暢に会話を運ぶ能力とともに、話す内容における論理性や一貫性、問題意識や現状認識を持っていることを確認しました。Essay2に基づく面接においても、多くの受験生が勉強と大学生活への意欲、自己啓発に留まらず立命館大学とANUへの高い関心と社会貢献への抱負を持っていることを確認しました。評価のポイントをおさえられていた受験生は約8割5分程度であり、全体的に突出した能力のばらつきはなかったものの、最上位と最下位の間の評価の差は顕著でした。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

グローバル教養学部で求める人材像は、多読による博学さや高い暗記能力・論理的思考力・演算能力のみに長けた古い知性人のイメージではありません。世界規模で激増するデータ・情報の処理技術を基盤とする機械学習能力の加速が著しい人工知能との共存が必須となる時代を迎える中、「知性とは何か、知性人とは何か、人類の繁栄と発展のために知性はどう活かされるべきであるか」などの疑問を常に抱き、積極的に考察する学生をグローバル教養学部は求めます。読書量のみに頼る多読ではなく、日々の問題意識から生まれるテーマを軸にして、既存の常識と枠を超える多様な組み合わせを試みながら独創的知見を構築し、表明することが重要です。さらに、グローバル教養学部では自ら異文化体験や異見に接し、自己啓発に励む姿勢を大切にします。他者との共感力や協働能力の上達についても毎日熱心に考え、たくさんの経験をして下さい。

入学後、ANUの科目を履修するためには、英語と学力の2つの基準を満たす必要があります。英語基準のことをEnglish Hurdle、学力基準のことをAcademic Hurdleと呼びます。各ハードルの詳細については、GLAウェブサイトの“Academic and English Hurdles”のページでご確認ください。

English Hurdleをクリアするためには、TOEFLやIELTSなどの英語能力試験で評価される指標(Reading, Writing, Listening, and Speaking)すべてをバランスよく上達させることが必要です。そのために高校生の時期は、まずReadingとWritingの上達を目指して日々英文に接し、定期的に(例えば週に1回)特定のテーマ(例えば新聞やメディアで扱われているニュース・時事問題など)を決めて、100~200words程度のWritingの練習を反復してください。その際に、ご自分で抱えている問題意識に基づき、国内外社会情勢などについての意見や批評を書くことが良いでしょう。そして、高校または塾の英語科目の担当教員にWritingをチェックしてもらうことも良いでしょう。また、ListeningとSpeakingについては、ほとんどの学生が入学後の1年間でかなりスキルアップしますが、高校生の時期は、毎日頻繁に英語に接し、英語を生活の中で使うことを強く推奨します。

総合的に英語力を向上させるためには、毎日の努力と練磨の積み重ねなしでは達成されません。必ず上達するという自らの信念をもってチャレンジしてください。

以上